

令和6年5月8日

パネル展「『被災地』福島 十二人の12年」を開催！
福島大学地域未来デザインセンター相双地域支援サテライト主催

福島大学地域未来デザインセンター相双地域支援サテライトは5～6月、パネル展「『被災地』福島 十二人の12年」を福島大学フクニチャージ図書館で開催します。原発事故で避難指示が出されるなどした12市町村で暮らす人たちの事故後の生きざまと日常、被災地の今を紹介します。

原発事故で避難指示が出されるなどした福島県の12市町村（※田村市・南相馬市・川俣町・広野町・楡葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村・飯舘村）は現在、帰還困難区域を除いて全ての自治体で居住が可能になっています。

当地は原発処理水の海洋放出を巡り、国内外から大きな注目を浴びましたが、そこで暮らす人たちの日常はあまり知られていません。本展では各市町村から1人ずつ人物を取り上げ、事故後の生きざまを写真や記事で振り返ります。（※本年2月、同会場で行ったパネル展と同じ内容です）

【実施概要】

日時：2024年5月10日(金)～6月7日(金) 9:00-20:45（最終日14:00まで）

場所：福島大学フクニチャージ図書館（福島市金谷川1）

※土日は11:00-18:00

※入場無料

（お問い合わせ先）

福島大学地域未来デザインセンター

コーディネーター 佐藤 孝雄

電話：0240-23-6675

メール：r411@ipc.fukushima-u.ac.jp

入場
無料

東日本大震災パネル展

「被災地」福島 十二人の12年

原発事故に遭った12市町村で
暮らす人たちの今ここ



12のまち、交差する12の人生

2011年3月の東日本大震災、福島第一原発事故から13年。避難指示が出されるなどした福島県の12市町村※は現在、帰還困難区域を除いて全ての自治体で居住が可能になっています。

当地には様々な課題と向き合いながらも、気負いなく暮らす帰還住民や移住者たちの日常があり、「新しいまち」の風景を構成しています。

本パネル展では、各市町村から1人ずつ人物を取り上げ、事故後の生きざまを振り返りつつ、被災地域の今を伝えます。

※田村市・南相馬市・川俣町・広野町・楢葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村・飯館村

photo/太平洋と福島第二原発を望むとみおかワインドメニューのブドウ畑（富岡町）

2024

5/10金 ▶ 6/7金

9:00-20:45 土日 / 11:00-18:00

(最終日は14:00まで)

会場：福島大学附属図書館 福島市金谷川1

主催

福島大学地域未来デザインセンター
相双地域支援
サテライト

相双地域支援サテライトは福島第一原発事故の被災地域と福島大学とをつなぐ現地の拠点として、2012年6月、川内村に開設。現在は富岡サテライトと浪江サテライトに職員を配置し、被災12市町村を対象とした支援活動を行っています。



相双地域支援サテライト
キャラクター
そうそうくん

お問い合わせ

福島大学地域未来デザインセンター・相双地域支援サテライト(富岡サテライト)

〒979-1112 福島県双葉郡富岡町中央2丁目83 とみおかワーキングベースJ号室 TEL:0240-23-6675 e-mail:r411@ipc.fukushima-u.ac.jp

